

【解説】ケムトレイル散布は地域によって減ったかもしれないが、もちろんなくなったわけではない。有力政治家によるこのような公式発言は一般市民にとって心強く、ネット上の支持者はかなりの数になっている。

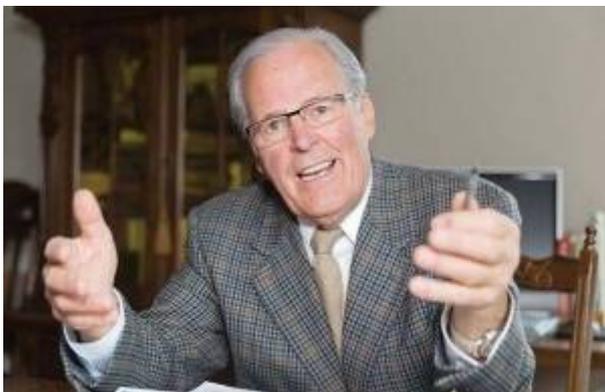
「気象操作」は天候を武器として、この地球を「全方位支配」するものだと、彼らが言っている以上、わが国のこの異常気象も、ここに言われている北米大陸の操作された異常気象の連続として考えなければなるまい。

「陰謀説」という言葉が、反対者を冷笑し退けるために彼ら自身によってつくられたものだとすれば、この言葉を使ってきた人は恥じていなくなるであろう。ここにも言及されている先日の「米国家安全保障局」(NSA)の陰謀と、それが暴かれた後の、彼らの一般市民に対する監視強化は、露骨過ぎて「陰謀」とさえ言えなくなったのではなかろうか？

元カナダ州知事が公的にケムトレイルの危険を警告

(Bill Vander Zalm puts politicians on notice)

August 16, 2013



元ブリティッシュ・コロンビア州（カナダ）知事が公的書簡でケムトレイルを認める

元ブリティッシュ・コロンビア州知事 Bill Vander Zalm が、BC州全土の政治家に次のような手紙を送った。

気象コントロールの危険について

“気象変化”という便利な名前では今は呼ばれる“地球温暖化”は、農業、従って国家安全

保障問題への脅威だと私たちは聞かされている。国家安全保障問題として、彼らが気象変化と闘うためにどんなことをしようが、それは公表すべきものの範囲外とすることができない。

何年にもわたって多くの人々が、コントレイル (con-trail, 飛行機雲) だと教えられているが、実は経験から言ってコントレイルとは違うものを観察している。それらはすぐに消失しないで、かなり長い期間、大気圏に拡散して留まり、それらが大量に縦横に撒かれるような場合には、かなりの曇りの原因になっている。特に太平洋側北西部では曇り空になることが多い。その証拠は必ずしも見えはしないが、他の場所と同じく、多くのこの住民たちは、これは水蒸気の凝結によるコントレイルでなく、地球温暖化を防ぐことになっている、有毒物質に満ちた「ケムトレイル」(chem-trail) だと言っている。

政府関係者の間では、それは“Geo-engineering”(地球規模の気象操作) と呼ばれ、地球の天候システムを操作するものである。これは、特にH A A R Pの技術の途方もない能力を考え合わせてみるなら、恐ろしい代物である。我々が情報を求めないで服従するように、「ジオ・エンジニアリング」と「ケムトレイル」は、軍産複合体のプログラムと定義付けられ、これは私的な請負業者、大きな燃料会社、航空会社などと契約して行うもので、飛行機がもともとそこになかった粒子状物質 (particulate matter) を大気圏に散布するものだと知らされる。

無関係なことに思う人もあるだろうが、ごく最近になってやっと我々は、無線操縦無人機 (drone) が1万フィートの上空から地上の人の顔を判別できること、政府が我々の毎日使っている電話やeメールをすべてモニターできること、テロリストは何マイルも離れた所から、携帯電話を使って爆弾を爆発させることができることなどを知った。

ケムトレイルは、アルミニウムやバリウムなど、非常に有害な毒物のごく微小な粒子からなっている。それは我々が吸い込み、水を毒性化し、土壌を殺す毒物である。我々はガンを引き起こす間接的な原因の喫煙を避けることはできるが、空から降ってくる、それよりはるかに有害な微粒子を避ける方法はない。現在すでに、ガン、アルツハイマー病、ルー・ゲーリック病 (筋委縮)、ハンチントン病 (認識力低下、情動障害)、パーキンソン病、自閉症、骨の諸病などが、かつてないレベルに上昇し、そのすべてが直接アルミニウムとつながっているとされる。

人間が自然を操作するときはいつでも、それが利益のためであれ政策であれ、その代価と結果は恐るべきものとなる。北米東部のハリケーン、中西部のトルネード、トロントの大洪水、カルガリーの前例のない大水害、松食い虫蔓延によるブリティッシュ・コロンビア

の何百万の樹木の損失——これらすべてが“母なる自然”と気象変化のせいになされ、「気象操作」にはひと言も言及されない。

さらなる情報を求めようとする人には、よく知られた神経外科医 Russell L. Blaylock 博士のインターネット・サイトをお勧めする。彼は、ロックフェラー、フォード、カーネギーといった財団の援助を受けたエリートたちによる「社会エンジニアリング」について語っている。

「米科学アカデミー」(National Academy of Sciences) の発行する文書によれば、C I A (米中央情報局) は、気象変化を食い止めるために、この惑星の気象を変更する実行可能性を割り出す科学研究に、資金を出しているという。政府機関がある研究をしているときには、すでに進められている活動を正当化するためである可能性が高い。

有毒化学物質を大気圏に散布するような、いかなる活動も、連邦、州、地方政府の承認なしに、また時期、場所、使われる物質を規制する詳細な合意なしに、実行されてはならない。ハワイ州マウイの政府は、現在、エアロゾルや他の粒子状物質を、マウイの人民のインフォームド・コンセント (情報を与えられた上での合意) なしに、大気圏に放出することを禁ずる条例 (法律) を考慮中である。

いかなる連邦、州、地方政府も、このような「気象コントロール計画」を通知したこともなく、その存在を否定したこともない。

複雑な問題を合理化するどんな試みも、“エリート集団”や彼らが支配する人々によって、「陰謀説」という名で呼ばれていることを私は知っている。そのあるものは陰謀「説」かもしれない。しかしこれが次には、一般民衆にこれを気付かせようとするすべての試みを阻止するために利用されるのである。あまり遠くない昔、政府が電話の盗聴をしているとか、我々の e メールをすべて調べているとか言う、それは「陰謀説」という符牒を付けられてからかわれたものである。

(1) 私、ビル・ヴァンダー・ザームは、連邦および地方の「情報の自由」原則によって、「気象コントロール計画」に関する、政府あるいはその省庁の人々によって記録されたすべての情報を要求する。

(2) 私、ビル・ヴァンダー・ザームは、市議会、市評議会と地方委員会が、条例を議決して、「気象コントロールのためのいかなる粒子状物質も、彼らの司法権内の大気圏に、情報を受けた合意なしに、散布されてはならない」と定めることを要求する。そしてこの問

題は、本年9月、討議と考慮の対象として、市政府連合会の年次大会に提出されることを要求する。

——以上